

## 記念貨幣の収集



財務省東北財務局長 河野一郎

趣味と言えるようなものではありませんが、記念貨幣の収集を続けています。家族が東京オリンピック（昭和39年）や日本万国博覧会（昭和45年）などの記念貨幣を集めているのを見ていましたので、天皇陛下御即位記念貨幣（平成2年）の頃から自分でも集め始めるようになりました。各年銘の500円から1円までの6種類のプルーフ貨幣と年銘板を特製革ケースに組み込んだ「通常プルーフ貨幣」は、毎年購入してきましたが、発行されるものをすべて収集してきているわけではなく、気に入ったものだけを収集しています。

平成20年度からは、地方自治法施行60周年記念貨幣（千円銀貨幣、500円バイカラー・クラッド<sup>注</sup>貨幣）がシリーズで毎年度6～7都道府県ずつ発行されるようになり、発行枚数が限定されているため、毎回、家族全員が葉書きで応募し、何とか抽選に当選して購入を続けています。なお、このシリーズは、平成28年度前半に福島県（購入申込みは平成28年4月頃を予定）と東京都の記念貨幣が発行されて終了する予定です。

また、平成27年から28年にかけては、東日本大震災復興事業記念貨幣（1万円金貨幣、千円銀貨幣）が発行されましたが、残念ながら抽選漏れで1枚も買えませんでした。新幹線鉄道開業50周年記念貨幣も発行されていて、千円銀貨幣は抽選漏れで買えず、平成27年4月に発行された5路線の百円クラッド貨幣は引換えで入手し、平成28年に発行予定の山形・秋田・九州・北海道新幹線の百円クラッド貨幣も金融機関で引き換えようと思っています（引換要領は平成28年3月頃発表予定）。

このほか、通常プルーフ貨幣とカラー印刷した銀メダルを特製革ケースに組み込んだ「桜の通り抜けプルーフ貨幣セット」が平成18年から毎年発行され、最近では、「宝塚歌劇百周年プルーフ貨幣セット」や「ジャングル大帝テレビ放送50周年プルーフ貨幣セット」など、さらには外国の貨幣とコラボした「日・ミャンマー外交関係樹立60周年記念プルーフ銀貨幣」なども発行されています。

特殊な技術を用いて表面に光沢を持たせ模様を鮮明に浮き出させた「プルーフ貨幣」は、額面金額よりも高い価格で販売されるため、これらを収集するのは、結構、お金がかかります。

しかしながら、あまり熱中し過ぎず、これからも気に入った記念貨幣を収集し続けようと思っています。



地方自治法施行60周年記念貨幣（福島県）の表面図柄

注 バイカラー・クラッド技術：異なる種類の金属板をサンドイッチ状に挟み込んで（クラッド技術）できた円板を、それとは異なる金属でできたリングの中にはめ合わせた（バイカラー技術）もの。